

基準 4 教育課程・学習成果

令和 4 年度（評価対象期間：令和 4 年 4 月～令和 5 年 3 月）
 （公財）大学基準協会の定める点検評価項目による自己点検・評価シート

1. 現状説明

点検評価項目③	教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	自己評価 S、A～C
評価の視点1	各学部・研究科において適切に教育課程を編成するための措置 <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性 ・教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮 ・単位制度の趣旨に沿った単位の設定 ・個々の授業科目の内容及び方法 ・授業科目の位置づけ（必修、選択等） ・各学位課程にふさわしい教育内容の設定 ・初年次教育、高大接続への配慮（【学士】） ・教養教育と専門教育の適切な配置（【学士】） ・コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等（【修士】） ・教育課程の編成における全学内部質保証推進組織等の関わり 	A
評価の視点2	学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育の適切な実施	A
現状 評価の視点ごとに具体的にかつ簡潔に記述。	<p><評価の視点1、2></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 3 年度に行った自己点検・評価時点からの変更はない。従前の通り、適正に実施している。 ・本学の教育課程はカリキュラム編成の方針に整合的に対応するようにカリキュラムが組まれている。順次性については、基本的に前期課程に基礎的な知識や技能に関わる科目、後期課程に専門性をより高めた科目を配置するほか、前期課程では教養科目に該当する全学共通科目を 42 単位・学部専門科目が 20 単位であるのに対し、後期課程では全学共通科目が 16 単位・学部専門科目が 46 単位を修得すべき所定の単位数として、段階的に専門的な学習ができるようになっている。また各学部科目では履修モデルを設定することで体系性に配慮し 	

	<p>た履修が可能となっている。カリキュラムには、必修科目群を設定し学生が身につける必須の科目と位置づけながら、関連する領域を広く重層的に学べるように選択科目も配置する。その内容は各学位課程にふさわしい教育内容となっている。次期教育課程改正にあってはさらに学修者の満足度につながるよう毎年の「学生生活に関する調査結果報告」の教育課程満足度を問う設問を改善しデータを蓄積する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位設定については、講義科目を2単位、演習・実習科目を1単位として、単位修得に合わせた授業内学修時間、およびシラバスに予習・復習時間を明記することで授業外学修時間も確保し、単位の実質化に取り組んでいる。「2021年度学生生活に関する調査結果報告」から見られる実際の予習・復習時間（一週間での平均2～3時間未満の学生が60%以上）の改善につなげる。 ・この他、1年次には大学で学ぶための基礎的なスキルを身につけさせるために、導入科目としてプロゼミⅠ・Ⅱ、情報処理科目を設定している。社会人形成科目では、講義と演習が相互補完的に結び付いて、本学の教育理念である実践力を初年次から養成している。 ・大学院では通論（必修）・特論（選択）・演習（必修）を配置し、通論と特論で専門を深めながら、演習で指導教員から専門的指導を受けて修士論文を執筆する運びとなる。 ・本学では、大学をめぐる社会環境が激変する中、本学の教育課程のあり方を多角的に検証し、時代の要請に応じたより適切な教育課程に改善するため、「令和8年度実施教育課程検討委員会」を新たに設置し、令和4年9月7日付けで、令和8年度実施教育課程編成について検討するよう諮問した。これを受けて同委員会は、令和5年3月15日付けで「令和8年度実施教育課程検討委員会答申」を学長へ提出した。 ・教育課程とは別の教職課程において、自己点検・評価を実施し公表した。
<p>根拠資料 上記の根拠資料を列挙し、提出。（web資料はURLを明記）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①学生便覧「教育課程」 ②2021年度学生生活に関する調査結果 ③大学院学生便覧「教育課程」 ④令和8年度実施教育課程編成についての諮問 ⑤令和8年度実施教育課程検討委員会答申

点検評価項目⑥	学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	自己評価 S、A～C
評価の視点1	各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定（特に専門的な職業との関連性が強いものにあっては、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。）	A
評価の視点2	学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握及び評価するための方法の開発 <学習成果の測定方法例> ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取	B
評価の視点3	学習成果の把握及び評価の取り組みに対する全学内部質保証推進組織等の関わり	B
現状 評価の視点ごとに具体的にかつ簡潔に記述。	<評価の視点 1、2、3> ・令和3年度に行った自己点検・評価以降、学位授与の方針に明示した学生の学習成果の測定については、学修ポートフォリオを導入した。令和5年4月の導入を目指し、アセスメント・ポリシーの策定と並行しながら、準備を整え、令和5年2月に教職員に対して学修ポートフォリオ説明会を開催した。学修ポートフォリオの導入と合わせてポータルサイトの学生カルテ等を利用し指導できるようにすることで、「2021年度学生生活に関する調査結果報告」問15（1年生）、問18（2～4年）及び問16（1年生のみ）が示す学生の大学や所属学部の教育目標、育成する人材像の認知度の向上につながる整理ができた。 ・アセスメントマップに基づく、アセスメント・ポリシーの一つに位置づけられる学修ポートフォリオを通じて把握された情報は、内部質保証委員会にて検証され、改善に役立てられるよう枠組みを整える予定である。 ・現在、全学的に用いられている成績指標は、GPAを用いた学習成果の測定である。その結果は各種奨学金や修学支援の選考等にも用いている。また入学予定者には英語プレイスメントテストを行い、学力の測定をしている。この他、心理学部では健康心理士資格取得者の	

	数、大学院人文科学研究科臨床心理学専攻では公認心理師・臨床心理士資格取得者の数、文学部では教員免許および博物館学芸員資格、司書課程資格の数をそれぞれ把握し、学習成果の指標としている。
根拠資料 上記の根拠資料を列挙し、提出。(web資料はURLを明記)	①2021年度学生生活に関する調査結果 ②GPAの測定結果 ③「教育の質の向上と学習者本位の教育への転換、および学修成果・教育成果の把握・可視化を促進するための施策実施状況の報告に関する諮問」に対する答申について(学修ポートフォリオの導入とアセスメント・ポリシーの策定について答申したもの) ④跡見学園女子大学教職課程 (https://www.atomi.ac.jp/univ/wordpress/wp-content/uploads/2022/12/69b315fca90a10c87a6b00b70acf9723.pdf) ⑤R4公認心理師試験結果 ⑥R4年度臨床心理士試験結果 ⑦資格課程資格取得者数(教職課程を除く)

2. 現状の検証

長所・特色 簡潔に記述。	教育課程の編成、実施、点検・評価、改善は学部の学務委員会と全学共通科目運営センターがそれぞれ中心となり継続的に実施され、PDCAサイクルを実施していることは、教育課程の「質の保証」の取り組みである。令和8年度教育課程検討においては、臨時委員会「令和8年度実施教育課程検討委員会」を設置し、検討を開始して令和5年3月には答申が出された。 また、学長諮問への全学教務委員会答申を踏まえ、学習成果の測定に学修ポートフォリオを導入した。
課題・問題点 簡潔に記述。	・教育課程編成見直しについて令和6年度に向けて検討を重ねてきたが、大方針は部分的に固まったものの、全学共通科目と学部専門科目のバランス及び具体的な科目の選定、時代に対応した科目領域の再検討、外国語科目の具体的な開講数などの課題が残り、令和8年度課程として改めて検討することになった。 ・学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価することについては、学修ポートフォリオに蓄積されるディプロマ・ポリシーごとに計測される学習成果の数値が、学部ごとに大きな偏りがないか、学生の成長の実態を適切に計測できているかを検討する必要がある。

課題・問題点に対する改善策 簡潔に記述。	<ul style="list-style-type: none"> ・令和 8 年度実施教育課程検討委員会において、令和 6 年度実施教育課程案で具体性が乏しかった項目について、検討中である。 ・令和5年度新入生より適用される学修ポートフォリオの実働を随時チェックしながら、年度末に適切性を検証する。
---------------------------------	---

3. 基準 4 全体の自己評価

基準全体の評価を、「S：極めて良好」、「A：良好」、「B：軽度な問題がある」、「C：重度な問題がある」から選択してください。	自己評価 S、A～C
	A

基準 5 学生の受け入れ

令和 4 年度（評価対象期間：令和 4 年 4 月～令和 5 年 3 月）
 （公財）大学基準協会の定める点検評価項目による自己点検・評価シート

1. 現状説明

点検評価項目②	学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	自己評価 S、A～C
評価の視点1	学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定	A
評価の視点2	授業料その他の費用や経済的支援に関する情報提供	A
評価の視点3	入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備	A
評価の視点4	公正な入学者選抜の実施 ・オンラインによる入学者選抜を行う場合における公正な実施	B
評価の視点5	入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施 ・オンラインによって入学者選抜を行う場合における公平な受験機会の確保（受験者の通信状況の顧慮等）	A
現状 評価の視点ごとに具体的にかつ簡潔に記述。	<p><評価の視点 1、2、3、4、5></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学者選抜は、入学者受け入れ方針に基づき「入学試験基本方針」「入学試験実施要項」を作成し、明確な方針と要領に従い公正に実施している。 ・授業料等の費用および奨学金等の経済的支援については、「大学案内」「入学試験要項」および本学ホームページ等で適切に公表しており、十分な情報提供を行っている。 ・入学者選抜の基本的な方針の決定プロセスが確立している。入学者選抜の実施は学長を責任者として入学試験実施本部を設置し全学的な体制で行っており、実施体制が適切に整備されている。 ・公正かつ適切な入試問題を作成するため「入試問題作成に関するガイドライン」を策定し、また出題ミス防止のため「入試問題検討会議」を開催している。合否判定については判定のプロセスと最終的な意思決定機関が明確となっている。 ・令和5年度入試より、大学院外国人留学生入試において、対面方式 	

	<p>に加えオンラインによる入試を導入することとしたが、志願者がいなかったため、実施には至らなかった。令和6年度の同入試では継続してオンライン入試を実施する予定であり、公正な実施方法の構築に向けさらなる検討を進める予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受験上および入学後に特別な配慮を要する志願者については、事前相談を受け付ける旨を入学試験要項に記載し、適切に対応している。 ・感染症等の理由により、試験当日に受験できない志願者に対しては、振替受験・追試験の措置を施している。令和6年度入学試験においては、遠方により振替試験日当日に来校できない志願者に対してオンライン試験（面接）を実施した。
<p>根拠資料 上記の根拠資料を列挙し、提出。（web資料はURLを明記）</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①入学試験基本方針 ②入学試験実施要項 ③2022年度 学生生活に関する調査結果 ④大学案内（該当ページ） ⑤入学試験要項（該当ページ） ⑥学費(https://www.atomi.ac.jp/univ/life/supports/expenses/) ⑦奨学金について (https://www.atomi.ac.jp/univ/life/supports/scholarship/) ⑧入試問題作成に関するガイドライン ⑨入試問題検討会議 ⑩大学院入学試験要項（該当ページ） ⑪2023年度入学試験結果

2. 現状の検証

<p>長所・特色 簡潔に記述。</p>	<p>入学試験の実施方針および実施体制が確立し、公正に入学者選抜が実施できているといえる。</p>
<p>課題・問題点 簡潔に記述。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集広報の強化 ・一般選抜における志願者獲得 ・大学院留学生入試における筆記試験のオンライン実施方法。
<p>課題・問題点に対する改善策 簡潔に記述。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度入学試験において志願者を大きく減らした事態を踏まえ、さらに「2022年度学生生活に関する調査結果報告」から読み取れる学生募集上の課題（例えば一般選抜希望者のオープンキャンパス参加者が少ない、など）等も参考に、令和5年度のオープンキャンパス、高校訪問、WEB広報など学生募集活動の強化に努めていく。オープンキャンパスにおける体験型企画の充実、高校訪問校の見直し、出張講義など高大連携事業の強化を目的とした高等学校への働きかけに

	<p>についても積極的に行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般選抜の試験日、ならびに、学外試験会場の設定については、過去の実績や他大学日程、志願者動向等の分析に基づき、適切に設定していく。 ・大学院外国人留学生入試におけるオンライン筆記試験の公正な実施方法については、継続して検討を進める。
--	--

3. 基準5全体の自己評価

<p>基準全体の評価を、「S：極めて良好」、「A：良好」、「B：軽度な問題がある」、「C：重度な問題がある」から選択してください。</p>	自己評価
	S、A～C
	A